

**KANEKA**

平成21年3月期  
第2四半期決算概要

株式会社 カネカ

## 1. 業績概要 (平成21年3月期 第2四半期決算短信 P. 1参照)

(単位：億円)

	19年 9月期	20年 9月期	前年同期比		当初予想 (20年9月期)
			増減額	伸び率	
売上高	2,512	2,489	△22	△0.9%	2,520
営業利益	182	102	△80	△44.2%	140
経常利益	181	102	△78	△43.4%	135
純利益	101	50	△51	△50.8%	75

- ◎ 売上高は前年同期に比して、△22億円、△0.9%の減収、営業利益は前年同期比△80億円、△44.2%、経常利益は△78億円、△43.4%、純利益は△51億円、△50.8%と、それぞれ減益となった。
- ◎ 特別損失として投資有価証券評価損△13.5億円、減損損失△4.7億円を計上している。(平成21年3月期 第2四半期決算短信 P. 9参照)

## 2. 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成21年3月期 第2四半期決算短信 P. 11、P. 15参照)

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	19年 9月期	20年 9月期	増減額	19年 9月期	20年 9月期	増減額
化成品	506	508	+2	26	18	△8
機能性樹脂	440	418	△22	69	37	△33
発泡樹脂製品	367	380	+14	△1	△1	+0
食品	572	616	+43	9	9	+0
ライフサイエンス	175	206	+31	23	34	+11
エレクトロニクス	292	225	△67	45	20	△25
合成繊維、その他	160	136	△24	35	17	△18
消去・全社費用	—	—	—	△25	△32	△7
計	2,512	2,489	△22	182	102	△80

- ◎ 売上高は化成品、発泡樹脂製品、食品、ライフサイエンスの4セグメントが増収で、それ以外の3セグメントは減収。営業利益では発泡樹脂製品、食品、ライフサイエンスが増益、それ以外の4セグメントは減益

- ◎ 為替は対ユーロでほぼ横ばい、対米ドルでは円高となっており、前年同期と比較して売上高で△73億円、営業利益で△24億円の影響となった。原燃料価格高騰は石化原料関連で△85億円（受入ベース）、食品関係を含めると△121億円（受入ベース）の影響であり、全体としては販売価格修正が追いついていない。
- ◎ 事業セグメント別の状況は以下の通り。
- ・ 化成品：塩化ビニール樹脂は原料価格上昇に伴う販売価格への転嫁は進んだものの、国内需要の落ち込みに加え、第2四半期途中から輸出市場の不調が加わり販売量減。塩ビ系特殊樹脂も国内需要の低迷や米国の住宅市場落ち込みの影響を受け増収ながら減益。か性ソーダは需給が締まり、総じて堅調に推移。セグメント全体では増収減益。
  - ・ 機能性樹脂：モディファイヤーは米国の住宅向け販売の不振に加え、極東・アジア市場も需要が減少する一方、原料価格高騰を販売価格に転嫁しきれず、大幅な減収減益。変成シリコーンポリマーは欧州市場が堅調に推移し、米国市場も前年同期並みの販売量を確保。セグメント全体では減収減益。
  - ・ 発泡樹脂製品：原燃料価格が高騰を続ける中、堅調な販売を維持、徹底したコストダウンに努め、発泡スチレン樹脂、押出發泡ポリスチレンボードの収益は向上したが、ビーズ法発泡ポリオレフィンに米国市況が一段と厳しく減益。セグメント全体では増収増益なるも、黒字には届かず。
  - ・ 食品：販売価格修正やコスト低減、新製品拡販に注力したが、原料価格高騰の影響が大きく、売上高は増加したが、採算は若干の改善に留まった。
  - ・ ライフサイエンス：医療機器は販売が順調に拡大し増収増益。医薬バルク・中間体も堅調な販売により増収増益。機能性食品素材は販売数量の増加により採算が改善。セグメント全体は増収増益。
  - ・ エレクトロニクス：エレクトロニクス製品の需要が低調に推移し、超耐熱性ポリイミドフィルムや液晶関連製品の販売数量は前年同期を下回った。加えて、販売価格も下落し、減収減益。太陽電池は欧州を中心に引き続き需要が旺盛で、輸出が好調に推移。セグメント全体は減収減益。
  - ・ 合成繊維、その他：合成繊維は原料価格高騰や円高の影響が大きく、高付加価値品の販売に注力したが減収減益。セグメント全体でも減収減益。

### 3. 単独／連結子会社別売上高・営業利益の状況

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	19年9月期	20年9月期	増減額	19年9月期	20年9月期	増減額
単独	1,570	1,529	△41	132	62	△69
国内子会社	1,208	1,293	+85	23	21	△1
海外子会社	545	533	△12	39	30	△9

- ◎ 国内子会社では医薬バルク・中間体の製造販売会社である大阪合成有機化学研究所が好調であるが、昭和化成工業、龍田化学など合成樹脂加工会社が減益。
- ◎ 海外子会社では米国の住宅市況の低迷の影響を受け、カネカテキサスが低調。住宅不況が欧州にも波及し、カネカベルギーも増収ながら減益となった。

### 4. 海外売上高の状況 (平成21年3月期 第2四半期決算短信 P. 12、P. 16参照)

(単位：億円)

	19年9月期	20年9月期	増減額	伸び率	(参考) 20年3月期
アジア	404	337	△67	△16.5%	779
北米	195	185	△10	△5.2%	365
欧州	290	300	+10	+3.5%	568
その他	75	93	+19	+24.9%	160
海外売上高計 (海外売上高比率)	963 (38.4%)	915 (36.8%)	△48	△5.0%	1,872 (37.2%)

- ◎ 輸出、海外子会社の売上高とも減少。為替が円高になったうえ、北米での売上高が引き続き低調で、アジアでの売上高も大幅に減少した。この結果、海外売上高は前年比△48億円減少(内、為替の影響△73億円)、海外売上高比率は前年同期38.4%、前期37.2%に対して36.8%へ低下した。

5. 通期決算の見通し (平成21年3月期 第2四半期決算短信 P. 1、P. 5参照)

(単位：億円)

	20年3月期		21年3月期		対前年(通期)		当初 予想 (通期)
	19年 9月期	通期 実績	20年 9月期	通期 予想	増減額	伸び率	
売上高	2,512	5,030	2,489	5,070	+40	+0.8%	5,200
営業利益	182	357	102	240	△117	△32.9%	330
経常利益	181	339	102	230	△109	△32.1%	315
純利益	101	188	50	125	△63	△33.6%	180

- ◎ 通期の連結業績は10月8日に当初予想を修正している。
- ◎ 発泡樹脂、食品、ライフサイエンスは増益となる見込みであるが、それ以外のセグメントは減益の見込み。機能性樹脂、エレクトロニクス、合成繊維、その他の減益幅が大きい。

以 上